

パートナーイベント

映文連 国際短編映像祭「映文連アワード2022」



会 期：2022年11月28日(月)～30日(水)
会 場：(表彰式) 国立新美術館講堂 (上映会) ユーロライブ
主 催：(公社) 映像文化製作者連盟
後 援：文部科学省／経済産業省／東京都／(特非) 映像産業振興機構／(一社) 日本映画テレビ技術協会／
(一社) 日本アド・コンテンツ制作協会／(一社) 日本ポストプロダクション協会／日本映画撮影監督協会／
日本映画テレビ照明協会／(一社) デジタルコンテンツ協会／(株)毎日新聞社／(株)日本経済新聞社／(株)朝日新聞社／
(株)読売新聞東京本社／(株)映像新聞社／(有)ユニ通信社
対 象：一般、学生、映像制作関係者
公式サイト URL：http://www.eibunren.or.jp/award2022/index.html

総来場者数(参加数)：900人 ※ライブ配信視聴者含む
内 訳：(国内入場者数(参加数)：900人 海外入場者数(参加数)：0人)
プレス社数：3社
内 訳(国内プレス社数：3社 海外プレス社数：0社)

■開催内容

16回を迎えた、わが国唯一の産業・文化関連の短編映像祭「映文連アワード2022」表彰式は、11月28日(月)午後1時30分から国立新美術館講堂において開催し、最優秀作品賞(グランプリ)を始め、32作品と1名の受賞者に賞状とトロフィーを授与した。「映文連アワード2022」受賞作品上映会は、29日(火)・30日(水)に渋谷・ユーロライブにおいて開催し、受賞作品32本を全受賞作品32本を8プログラム(「人間・ドキュメント」、「Timeless」、「文化遺産を守る」、「コーポレート映像の今」、「伝統を受け継ぐ」、「人権を考える」、「若手クリエイターたちの表現Ⅰ」、「若手クリエイターたちの表現Ⅱ」)に分けて上映。トークセッションは2つ(「時を超える映像」、「多様性を求めて」)開催。

29日夜は、「International Corporate Film Showing 2022」を開催し、ドイツのWorld Media Festival、Cannes Corporate Media & TV Awards等から招聘した映像祭で受賞した企業映像15作品を上映した。プロデューサー等関係者のビデオメッセージを4本上映したことで、充実した内容となった。

■2022年度の新規取り組みとその成果・特色など

今回は、受賞作品中に、ろう者を題材にした作品があったこともあり、会場及び配信において手話通訳を初めて実施した。また、コロナ禍による人数制限があったため、多くの人に見てもらおう方策として、表彰式の模様を、日経チャンネル(<https://channel.nikkei.co.jp/>)で取材してもらい、一昨年、昨年に続いてライブ配信にトライした。今後も当面アーカイブをしてもらい、視聴機会及び認知向上を図る。また、これも引き続き、トークセッションについてはYouTubeの映文連チャンネルにアップ(<https://youtu.be/oULe50Eg6yg>)、映文連公式ページのトップページからもリンクを貼った。



グランプリ作品表彰



トークショー



トークショー



受賞者集合写真



受賞者集合写真